

四万十市無電柱化推進計画(案)

令和2年12月11日

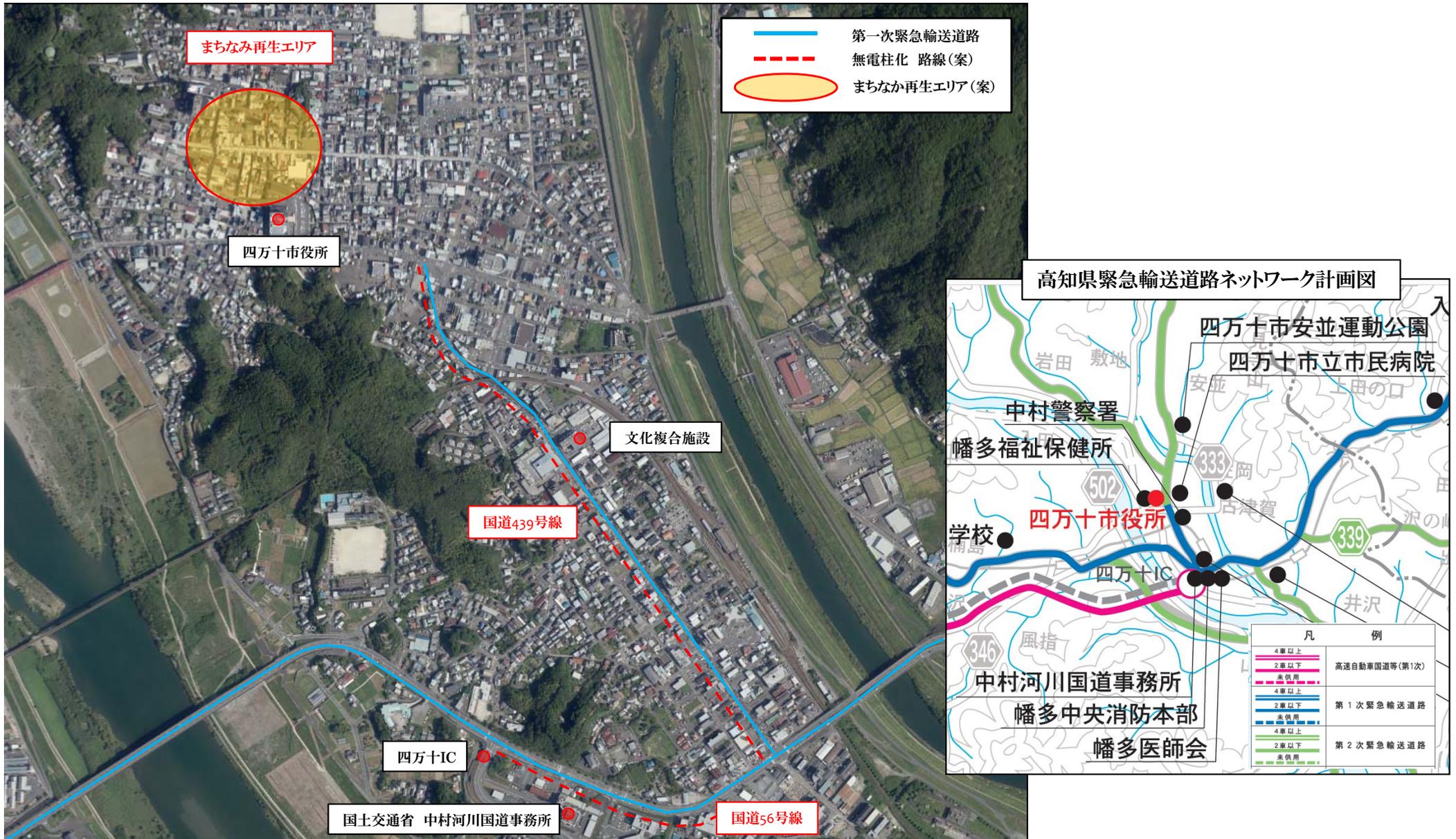
四万十市役所 まちづくり課



○四国地区無電柱化推進計画(四万十市地区)

本市では、「誰もが安全・安心かつ快適に暮らせる住環境の創出」を目標としており、災害に強いまちづくり、良好な生活環境の実現化のため、第一次緊急輸送道路の無電柱化の推進を図っている。

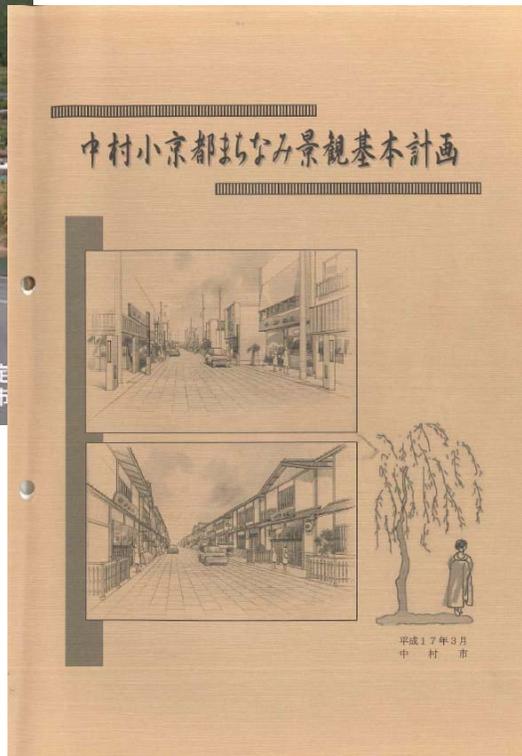
また、観光振興を活かした「土佐の小京都」のまちなみ景観の創出を目指すため、まちなみ再生エリア地区の無電柱化整備を推進。



○四万十市景観計画

四万十川の自然、流域の営みとが織りなす景観、国の重要文化的景観に選定されることを契機に、平成20年景観法に基づく「四万十川景観計画」を策定。

中心市街地としては、「土佐の小京都」と呼ばれており、一條神社など市が誇る貴重な歴史・文化資源が点在していた。しかし、昭和の南海地震などの被害により、今ではまちなみから「小京都」の面影がほとんど失われた。そのため、「土佐の小京都」を創出することを目的とし、中村小京都まちなみ景観基本計画を策定。



<モデル地区の対象>

- 対象地区 : 栄町商店街
- これまでの取り組み : TMO事業として祇園風街並整備事業を実施
- 予定取り組み : 室外機、プロパンガス等の囲障修景
犬矢来の設置
ゴミ箱の除外と清掃等 などによるまちなみづくりを予定

※ 和風のまちなみをイメージ (住宅マスタープランでのイメージ図)



※中村小京都まちなみ景観基本計画 抜粋

○四万十市における景観整備

国、県、市が協働し、せせらぎ水路や石畳みなどの景観修景を整備。

中村城からのまちなみ



せせらぎ水路



東下町稲荷通り



○四万十市まちなか再生検討会

本市では、「土佐の小京都」としての歴史・文化が集積する中心市街地(まちなか)の再生を図ることを目的として、「四万十市中心市街地活性化基本計画」を策定、官民協同で取り組みながら、まちづくりを推進。しかしながら、社会情勢の変化により、今後、持続可能な都市を維持、継続するため、平成29年8月「四万十市まちなか再生検討会」を発足し、まちなかの再生に特化して、議論を進めてきた。

四万十市まちなか再生検討会(30名)

- ・学識経験者
- ・市民団体等の代表者又は構成員
- ・公共的団体等の代表者又は構成員
- ・関係行政機関の職員
- ・前各号に掲げるもののほか市長が必要と認めるもの

報告
提案

うちワーキンググループ(16名)

- ・民間事業者
- ・庁内関連部課担当者

(3)検討会・WG会議の開催概要

No.	開催日時・場所・参加者	検討事項
① 第1回 検討会	平成29年8月22日(火) 6F 議員協議会室 ・検討会構成員12人 ・WG構成員11人	・検討会の目的及び役割 ・会長の選定 ・景観整備による効果について 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 景観・歴史文化環境整備課 課長補佐 大木 謙介 ・小京都の歴史・文化について 四万十市生涯学習課 社会教育振興係長 川村 慎也 ・これまでの取り組みと今後の方向性
② 第1回 WG会議	平成29年10月3日(水) 6F 議員協議会室 ・WG構成員14人 ・アドバイザー(北山助教)	・構成員紹介 ・検討会・WGの目的及び役割 ・これまでの取り組みと今後の方向性 ・各グループ作業 ① 今後「まちなか」に求められるもの 「まちなか」の課題、古い景観と空間(手法)、未知地域の活用(巡回旅行動地など) ② 対象動員 ・各グループの結果報告
③ 第2回 WG会議	平成29年11月1日(水) 3F 303.304 会議室～現地 ・WG構成員13人 ・アドバイザー(北山助教)	・まち歩き テーマ「中村にみるエリア特性と景観の“らしさ”を見つけよう」 【Aグループ】 現在の景観にみる中村らしさにきざい空間(身店街・生活空間コース：北山助教) 【Bグループ】 歴史からみる中村らしさ(史跡・情景コース：川村係長) ・各グループの結果報告
④ 第2回 検討会	平成29年12月1日(金) 6F 議員協議会室 ・検討会構成員13人	・検討経過について 第1回検討会の意見(平成29年8月22日) 第1回WG会議(平成29年10月3日) 第2回WG会議(平成29年11月1日) ・今後の観点について 課題の整理 まちなか再生の方向性と具体施策の検討 対象動員
⑤ 第3回 WG会議	平成30年1月10日(水) 3F 303.304 会議室 ・WG構成員13人 ・アドバイザー(北山助教)	・検討経過のまとめ ・各グループ作業 【時間軸とまちなか再生の目標】 高速道路の延伸など時間軸を踏まえて、「いつ」「誰」が「何を」するのかの案を深める。また、そのために必要となる事業や検討事項を明確にする。 ・各グループの結果報告

⑥ 第4回 WG会議	平成30年3月2日(金) 巡回旅行動地 ・WG構成員9人 ・アドバイザー(北山助教) ほか高知高専生徒4人	・小京都中村ジュニアアタックプロジェクト 対象：市立中村小学校6年生 主催：四万十市の道路整備を進める女性の会 協力：トレイルバックス 代表 伴隆 浩一 後援：一般社団法人 四国クリエイティブ協会 地域の活用アイデアを計画書等に、図ボールなどを使って制作し公募プレゼンテーション
⑦ 第3回 検討会	平成30年3月27日(火) 3F 303.304 会議室 ・検討会構成員14人 ・WG構成員11人	・WG検討内容について ・「小京都中村ジュニアアタックプロジェクト」の報告 ・今後のスケジュール
⑧ 第4回 検討会	平成30年10月1日(月) 3F 防災対策室 ・検討会構成員15人	・検討会報告書(案案)について ・まちなか地域資源発見ワークショップの実施について
⑨ 第5回 WG会議	平成31年2月22日(金) 6F 第12委員会室 ・WG構成員9人 ・アドバイザー(北山助教)	・検討会報告書(案案)について ・地域資源調査について
⑩ 第6回 WG会議	平成31年3月22日(金) 3F 防災対策室 ・WG構成員10人 ・アドバイザー(北山助教)	・各事業の目標像と、まちのイメージとのつながり ・効果的な体制づくり
⑪ 第5回 検討会	平成31年3月26日(火) 3F 防災対策室 ・検討会構成員12人	・検討会報告書(案)について

四万十市まちなか再生検討会構成員名簿(上段：新、下段：旧)

NO.	所 属	氏 名
1	一般社団法人四万十市観光協会 理事	佐田 博 (会長)
2	四万十市副市長	金納 聡志 (副会長)
3	独立行政法人 国立高等専門学校機構 高知工業高等専門学校 ソーシャルデザイン工学科助教	北山めぐみ
4	国土交通省四国地方整備局 中村河川国道事務所 事業対策官	山崎 太志 古澤 弘行
5	高知県土木部轄多士木事務所 技術次長	近藤 雅道
6	中村商工会議所 専務理事	佐伯 達雄
7	四万十市区長会中村地区区長会 会長	山崎 聡
8	四万十市商店街振興組合連合会 代表理事	土居 愛明
9	四万十市の道路整備を進める女性の会 副会長	稲田 玲子
10	四国電力株式会社 送配電カンパニー中村支社 ネットワークサービス部長	伊藤 公二 森岡 隆久
11	郷土史家	橋本 勝幸
12	四万十市地農防災課長	桑原 晶彦
13	四万十市企画広報課長	田能 浩二
14	四万十市財政課長	町田 義彦
15	四万十市観光商工課長	朝比奈雅人 山本 牧

四万十市まちなか再生ワーキンググループ 構成員名簿(上段：新、下段：旧)

NO.	所 属	氏 名
1	四万十市第二副市長	金納 聡志 (歴長)
2	一般社団法人中村青年会議所 理事長	山沖 直樹 青木 孝寿
3	四万十市商店街振興組合連合会 会計理事	右城 一仁
4	中村子ども劇場 運営委員	大杉 由紀
5	四万十市行政女子プロジェクトチームアドバイザー	寺尾 光加
6	社会福祉法人四万十市社会福祉協議会 総務・地域課 地域係主任	今村 満
7	四万十市地震防災課 地震防災係長	有光 浩
8	四万十市企画広報課 企画調整係長	稲田 智洋
9	四万十市企画広報課 広報統計係長	梶原 香 武田 千尋
10	四万十市財政課 財政係長	村松 大 竹本 志郎
11	四万十市高齢者支援課 介護保険係長 四万十市保健介護課 課長補佐兼介護保険係長	武田 千尋 中田 智子
12	四万十市観光商工課 観光係長 四万十市観光商工課 観光係(ANA 総研四万十市駐在員)	永田 莉子 来生 裕子
13	四万十市観光商工課 商工・雇用対策係長 四万十市観光商工課 商工・雇用対策係 主査	新玉 康之 小栗 史也
14	四万十市まちづくり課 計画係 技幹	太田 可鈴
15	四万十市子育て支援課 保育係長 四万十市福祉事務所 保育所係長	田村 典義
16	四万十市生涯学習課 社会教育振興係長	川村 慎也

○四万十市まちなか再生検討会 方針・課題

(3) 住民・来訪者にとっての交通利便性を高め、にぎわいを創出すること。

- ① 高速道路開通後のアクセス道路の検討、駐車場の確保により、住民・来訪者がまちなかへ足を運びやすい交通機能を検討する。
- ② 旧土曜銀行跡地・四国銀行跡地、各商店街を中心に、店舗の魅力向上、景観整備の推進、賑わいエリアを創出し、商店街の活性化を図る。
- ③ 観光の情報を入手できる拠点をまちなかに設け、四万十川—まちなかの回遊性の向上を図る。

住民・来訪者にとっての交通利便性を高める上で、以下のような手法を検討・実施していくことが望まれる。

<まちなかへの誘導とにぎわいづくり>

- ・ 車と歩行者、住民と観光客の双方を含めた動線・誘導計画の策定
 - 観光客の動線整備、病院・市役所等の公共施設利用者の誘導
- ・ まちなかのレンタサイクル拠点整備、看板や案内板の統一
- ・ 旧跡地をネットワークとして繋げるための街路整備
- ・ 空き店舗を利用したチャレンジショップの推進
- ・ 空き家を利用したまちなか定住対策
- ・ 景観整備にかかる補助金制度の創設、無電柱化

- ・ 中村駅からまちなかまでセグウェイが利用できる道路
- ・ 商店街の情報発信ツールの開発、強化
 - パンフレット作成事業の継続、拡大。Web 展開等

<未利用地を活用した空間づくり>

- ・ 大規模立体駐車場の設置による利便性の向上
- ・ 商店街と連携したランドマークとなる観光・総合案内所の設置
- ・ 大学等と連携したサテライトキャンパス誘致

まちなか再生の方針

- (1) 安全・安心で住民が親しみやすく、楽しむことのできる都市空間
- (2) イメージアビリティを高め、四万十市を象徴する中心地
- (3) 住民・来訪者にとっての交通利便性を高め、にぎわいを創出

【課題点】

本市においては、四万十川への観光客が年々増加傾向にあるが、まちなかの魅力が弱く、まちなかへの誘導ができていない状況である。

そのため、

「小京都・中村の魅力を感じるまちづくり、景観づくり」が必要となる。

【まちなかの魅力向上のための取組み】

- 空き家対策
 - ・ 空き家を利用したまちなか定住対策
 - ・ 空き家を利用した景観づくり
 - ・ 空き家の利活用検討

- 無電柱化
コストが高く、実現できていない

○財源確保

まだコストが高く、財源の確保ができず、整備まで至らないのが現実。

無電柱化の合意形成のための技術ガイド(仮称)の作成

第1回無電柱化推進の
あり方検討委員会資料

○無電柱化を実施するにあたっての課題



「無電柱化の合意形成のための技術ガイド(仮称)」の構成

1. 技術ガイドの概要

- ・ 作成目的、関係者、適用範囲、用語の定義

2. 無電柱化に関する基礎知識

- ・ 無電柱化の設備および構造
- ・ 無電柱化の進め方(推進体制、事業の進め方 等)

3. 無電柱化を進めるための合意形成プロセス

3-1 無電柱化の計画策定から施工までの流れ

3-2 無電柱化における段階ごとの合意形成

(1) 路線選定段階の合意形成

- ・ 無電柱化計画の策定時の合意形成
- ・ 無電柱化の事業手法の決定の合意形成

(2) 設計段階の合意形成

- ・ 予備設計の合意形成
- ・ 詳細設計の合意形成

(3) 施工段階の合意形成

- ・ 着工前の合意形成
- ・ 工事中の合意形成

無電柱化を推進する市区町村等の担当者のため
の参考資料として作成

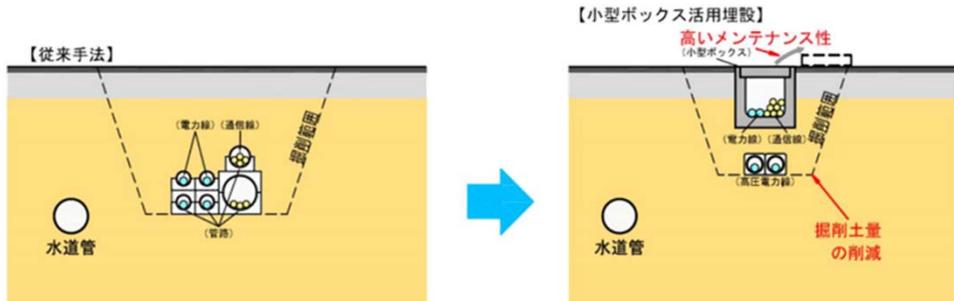
※無電柱化を推進する市区町村の会において実施した
アンケート調査結果
※252団体中196団体から複数回答(回答率78%)

○国土交通所における無電柱化整備における検証

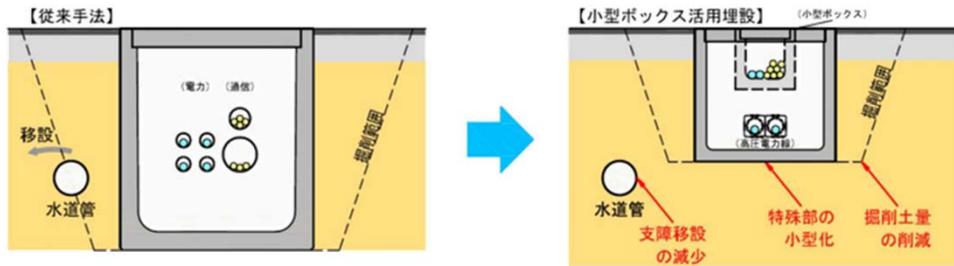
現在、国土交通省で低コストの検討が進められており、直接埋設工法や既存ストックの活用、規制緩和も進んでいる。

【工法検討】

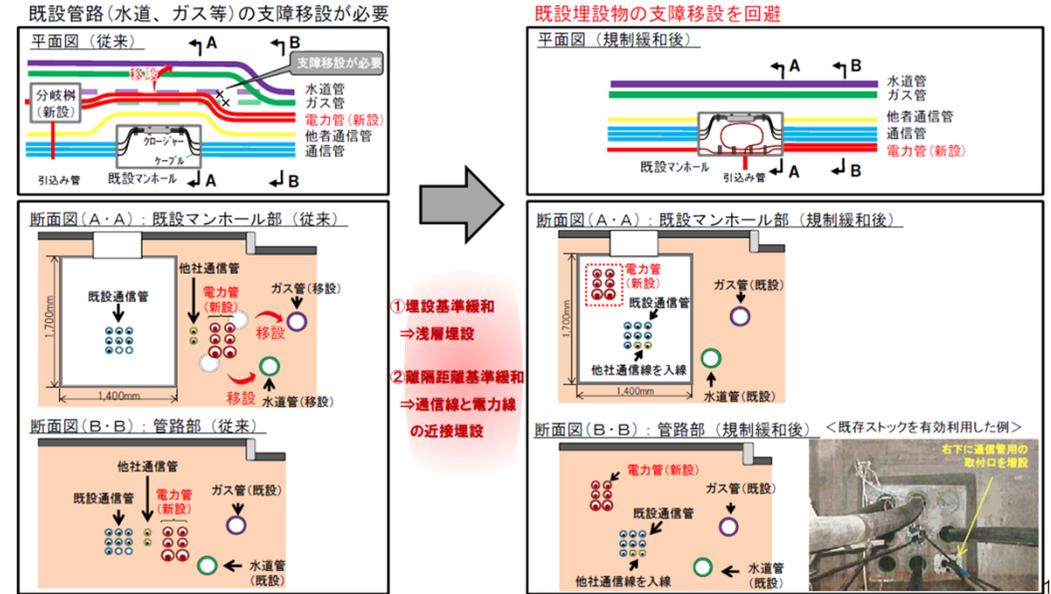
管路部



特殊部



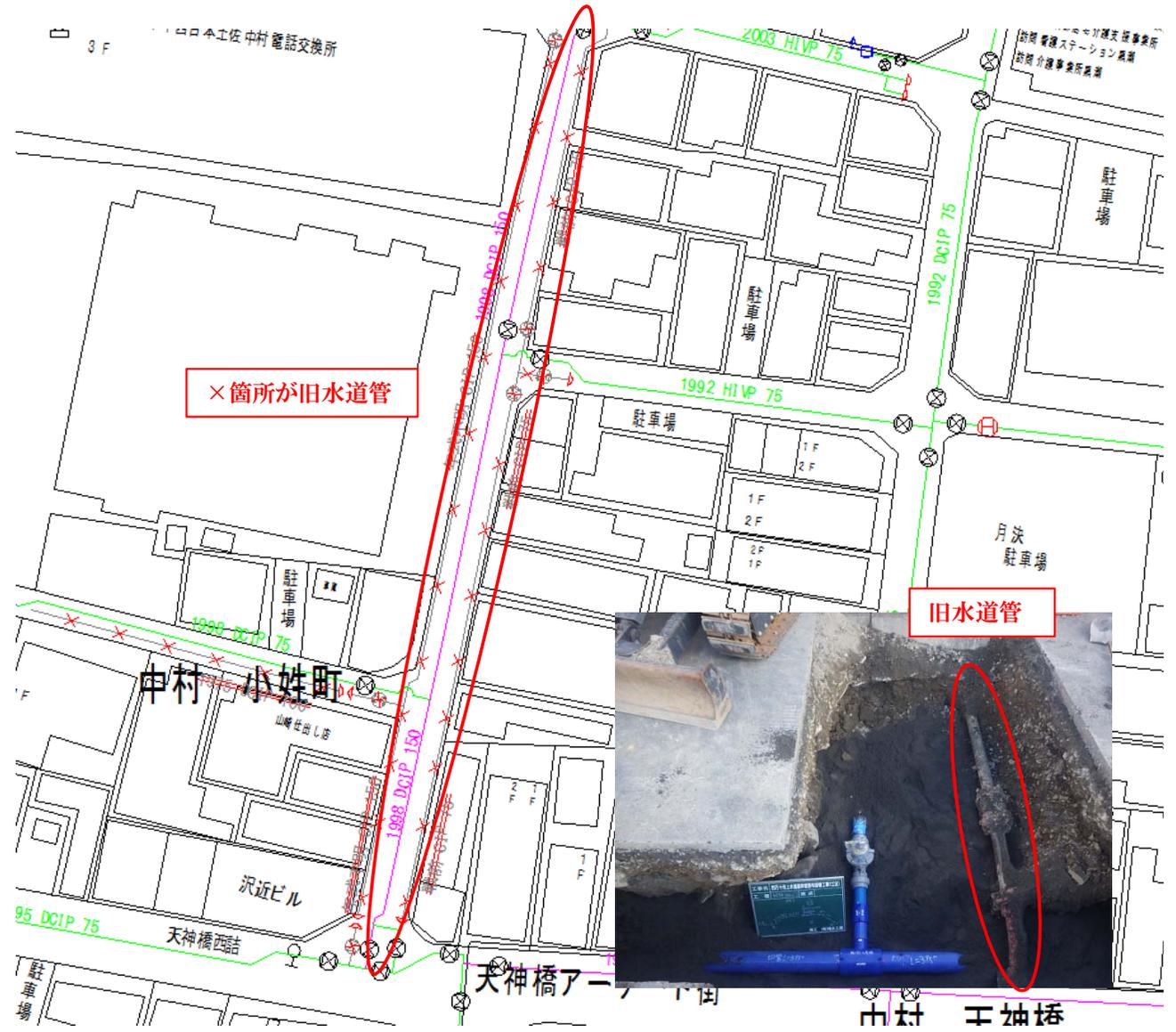
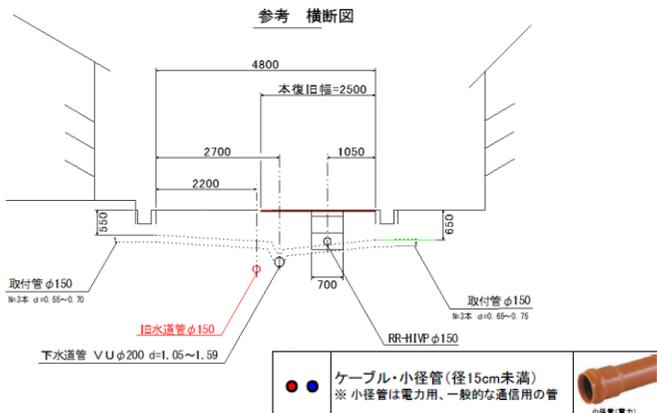
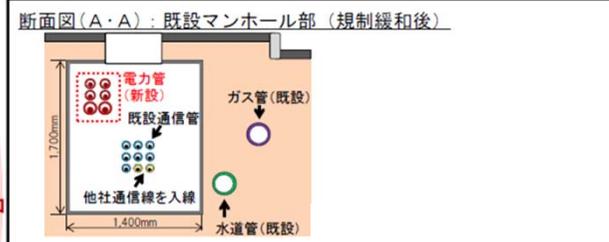
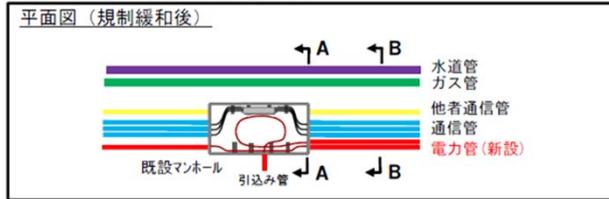
【既存ストックの有効活用】 【基準緩和】



○四万十市における無電柱化整備の可能性(低コスト工法)

四万十市では水道管の更新工事が行われており、まちなかに一部、旧水道管(Φ150)が残っている箇所がある。
その水道管を有効活用して無電柱化を整備。

既設埋設物の支障移設を回避



○低コストの確立

既存ストックを活用することで、掘削やAs取壊しが軽減。
幅員が狭い箇所などの道路制約が不要。



低コストの確立
既存ストックの有効活用

- 工事コストの削減
- 道路の制約軽減
- 既存ストックの有効活用
- 他施設の撤去費用の軽減
- 道路埋設物の増加を制限

○課題の抽出

しかし、旧水道管を有効活用することでの課題。

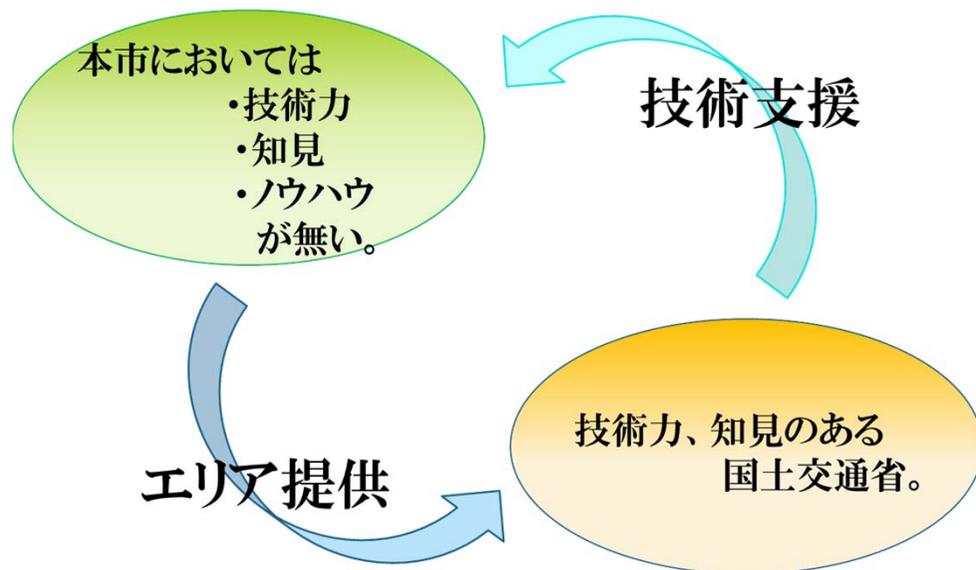
【課題】

- 鋳鉄管（旧水道管）を利用できるのか
- 離隔距離の確保
- 埋設深
- 電線管理者との協議
- ……etc

こういった課題があるが、本市には、無電柱化におけるノウハウや技術力が無い。

○四万十市の無電柱化の整備に向けて

- 課題解決に向け、国のノウハウや知見、技術力を導入。



- 地域の既存ストックを活用し、低コストの確立、無電柱化整備。



将来、無電柱化のニーズ箇所に位置づけを目指す！